

令和 4 年度
津市一般廃棄物最終処分場環境影響評価
事後調査

報 告 書
(要 約 書)

令和 5 年 3 月

津 市

目 次

事後調査の目的および項目等.....	1
水 質.....	2
地下水.....	3
鳥類（猛禽類）	4
調査地点図.....	5

事後調査の目的および項目等

○事後調査の目的

津市新最終処分場等施設建設事業では、「津市新最終処分場等施設整備に係る環境影響評価書（平成 25 年 3 月）」（以下「評価書」という）に示した事後調査計画に基づき、工事中及び施設供用後に事後調査を行うこととしています。

本報告書は 2022 年度（令和 4 年度）に実施した事後調査の結果をとりまとめたものです。

○事業者の名称など

事業者の名称：津市

事業者の所在地：三重県津市西丸之内 23 番 1 号

代表者の氏名：津市長 前葉 泰幸

対象事業の名称：津市新最終処分場等施設整備事業（以下、「本事業」という）

○事後調査項目

事後調査は 2013 年度（平成 25 年度）から供用終了（2030 年度）まで実施します。工事状況や施設稼働状況の変化とともに周辺環境へ影響を及ぼす要因（影響要因）も変化するため、年度ごとに調査項目を変えながら実施する計画としています。今年度（2022 年度（令和 4 年度））の調査項目は下表に示すとおりです。

なお、下表の調査項目のうち、陸生動物については学識者の指導を得て調査を実施し、調査結果及び保全措置の評価を行いました。

事後調査項目【2022 年度（令和 4 年度）】

調査項目		主な影響要因	
水質（地下水の水質除く）		工事の実施	アルカリ排水・濁水の影響
地下水の水質及び水位		工事の実施	地下水位の変化、流動方向に対する影響 アルカリ排水・濁水の影響
		存在及び供用（第 1 期供用）	地下水位の変化、流動方向に対する影響
陸生動物	鳥類 （猛禽類）	工事の実施	重機の稼働、資材の運搬に伴う工事用車両の走行、樹木の伐採・処理、土地の造成、発破、地盤改良、工作物の建設、工事用道路等の建設による影響
		存在及び供用（第 1 期供用）	造成地の存在、工作物の存在、土地の利用、工作物の供用・稼働、関係車両の走行及び緑化等による影響

注）本事業は現在第 2 期工事の延期により工事を中断している。また、2016 年度（平成 28 年度）より施設の一部供用（第 1 期供用）を開始していることから、「工事の実施」と「存在及び供用」の両方の影響について検討を行った。

○調査対象

- ①コンクリート打設工事及び地盤改良によるアルカリ排水の影響
- ②土地の造成及び工事用道路等の建設に伴う濁水の影響

○調査項目

- ・ pH
- ・ 浮遊物質量 (SS) など

○調査時期・頻度

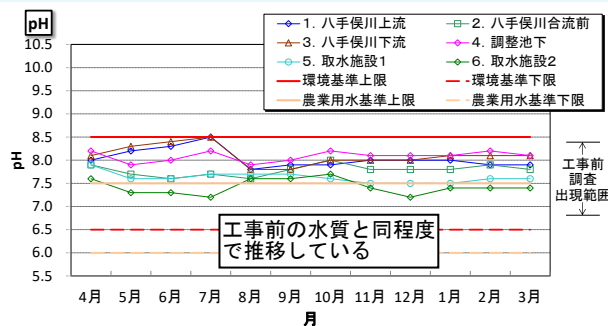
調査は2022年4月～2023年3月までの期間に毎月1回行いました。

○調査地点

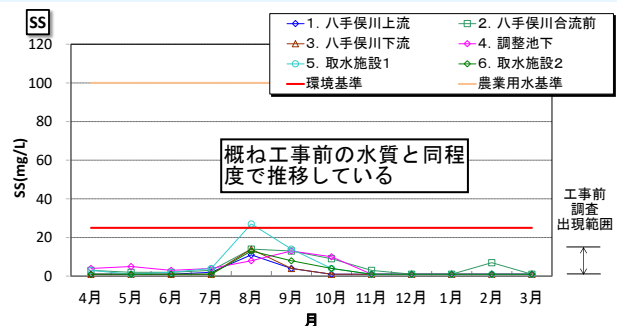
- ・ 対象事業実施区域内及びその周辺の6地点

○調査結果

水のアルカリ度を示す pH については、すべての調査時期、地点で、工事前の水質と同程度で推移していることが確認されました。また、水の濁りの指標となる水中の浮遊物質量 (SS) については、概ね工事前の水質と同程度で推移していることが確認されました。



水質結果変動【pH】



水質結果変動【SS】

○事後調査の結果の検討

本事業ではコンクリート打設や地盤改良に伴う pH 上昇の低減のため、アルカリ性排水の適切な処理を行い pH の上昇を抑制しています。本調査の結果、各地点で pH の値は大幅な上昇はみられず、工事前の値と同程度で推移しており、参考とした環境基準（河川 AA 類型）の範囲内でした。

また、本事業では場内からの濁水発生の抑制及び濁水濃度低下のため、防災調整池を設置し、濁水による影響を低減しています。本調査の結果、濁度(SS)の値は工事前の値と同程度で推移しており、多くの場合、参考とした環境基準（河川 AA 類型）の値の範囲内でした。

以上のように、事業影響による、pH、SS の値の変化は確認されなかったことから、環境保全措置は適切に実施されており、事業によるアルカリ排水及び濁水の影響はないと考えられますが、今後も水質の変化を毎月監視していくこととします。

○調査対象

- ①工事の実施に伴う地下水位の変化、地下水流動方向に対する影響
- ②土地の造成工事による降雨時の濁水の影響、並びにコンクリート打設及び地盤改良によるアルカリ排水の影響
- ③存在及び供用に伴う地下水位の変化、地下水流動方向に対する影響

○調査項目

- ・地下水の水位、水質(pH、濁度など)

○調査時期・頻度

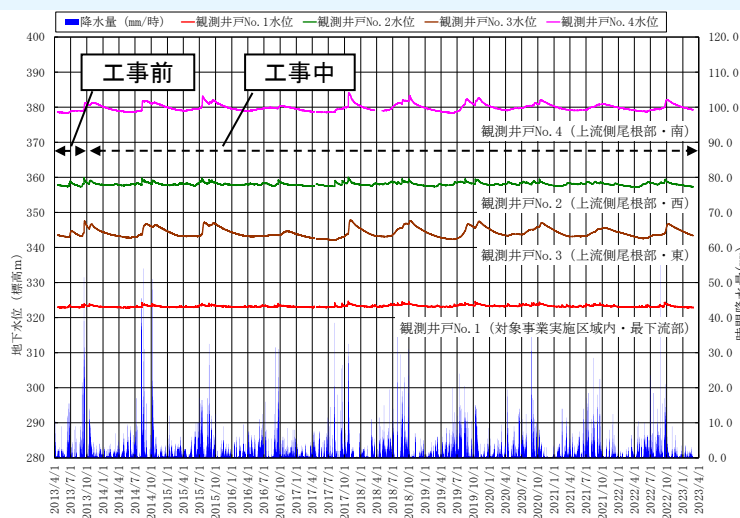
調査は2022年4月～2023年3月までの期間に毎月1回行いました。

○調査地点

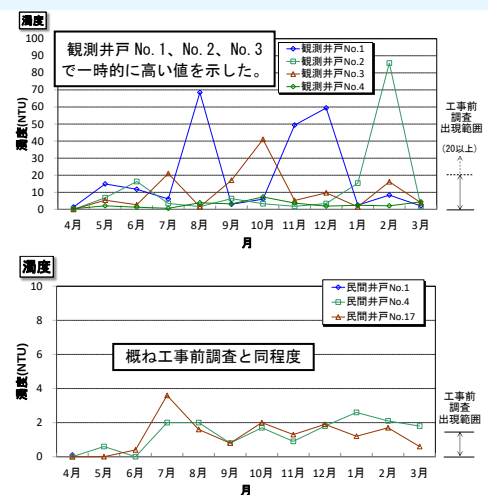
- ・対象事業実施区域内及び地下水流動方向下流側の7地点(観測井戸4箇所、民間井戸3箇所)
- ※民間井戸のうち1箇所は5月以降、調査時に家主が不在であったため調査できなかった。

○調査結果

水位・水質調査結果は、工事前(2013年9月以前)と概ね同程度の値で推移していましたが、濁度の値が、観測井戸No.1等で一時的に上昇しました。



観測井戸水位変動



水質結果変動【濁度】
(上：観測井戸、下、民間井戸)

○事後調査の結果の検討

本事業では、切盛土工や地下掘削等の工事の実施、廃棄物貯留構造物の設置を行い、2016年度から一部供用開始していますが、これまでの調査で地下水位に異常な変化はみられていません。

また、土地の造成工事による降雨時の濁水、並びにコンクリート打設及び地盤改良によるアルカリ排水の影響については、環境保全措置として防災調整池設置による濁水の影響低減、アルカリ性排水の適切な処理を行っています。8月、10月～12月、2月に観測井戸No.1等で濁度の上昇がありましたが一時的なもので、本事業では新たな掘削等は行っていないこと等から、事業の影響によるものではないと考えられます。

pHについては、期間を通じて異常な値の上昇はみられませんでした。

以上のことから、環境保全措置は適切に実施され、事業による濁水の影響、並びにコンクリート打設及び地盤改良によるアルカリ排水の影響はないものと考えられますが、今後も地下水位及び地下水質の変化を毎月監視していくこととします。

鳥類（猛禽類）

○調査対象

サシバ（KM・NT、YM、TH・HG（旧 TH） つがい）、クマタカ（A つがい）

その他確認される希少猛禽類や鳥類も適宜記録

○調査項目

・サシバ、クマタカの生息状況

○調査時期・頻度

調査は右図に示すように、サシバ・クマタカの繁殖期や繁殖状況に応じて実施しました。

○調査範囲

これまでに対象事業実施区域の周辺で繁殖が確認された営巣地を中心に、出現状況に応じて適宜確認を行いました。

○調査結果

調査の結果、サシバでは KM・NT、TH・HG つがいの繁殖成功が確認され、YM つがいは繁殖が確認されませんでした。調査対象つがいではありませんが、NO、OD つがいも合わせると合計 4 つがいが繁殖に成功しました。その他、NK つがいについてはペアでの飛翔を確認しましたが、繁殖には至らなかった様子でした。

クマタカでは、A つがいは 2022 年 3 月までディスプレイ飛翔や交尾といった繁殖に関する行動が確認されていたものの、それ以降繁殖に関する行動の確認はなく、繁殖を中断したものと考えられます。調査対象つがいではありませんが、北側の B つがいは、前年生まれと考えられる幼鳥を確認し、2020-2021 年の繁殖成功が確認されました。

両つがいとも 2023 年 3 月までの調査において、雌雄 2 個体での飛翔を確認しており、2022-2023 年の繁殖の可能性が確認されました。

【サシバ】

【サンバ】		非繁殖期 (東南アジア)											
		渡り 求偶 渡り		抱卵		巣内 育雛		巣外 育雛		渡り		非繁殖期 (東南アジア)	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定点	2022				○	○	○	○					
現地踏査	2022				○	○	○	○					

【クマタカ】

【クマタカ】													
		求愛		巣築		抱卵		巣内育雛		巣外育雛		求愛	
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
定点	2021												●
	2022	●	●	●		○		○	○				○
営巣地踏査	2023	○	○	○									
	2021												●
	2022						○	○			○		○

注) ●：2021 年度に調査実施 ○：今年度に調査実施

鳥類（猛禽類）の調査実施状況

サシバ行動圏

KM・NT つがい
行動圏

NK つがい
行動圏

TH・HG つがい
行動圏

OD つがい
行動圏

NO つがい
行動圏

対象事業実施区域

クマタカ行動圏

B つがい
繁殖期行動圏

A つがい
繁殖期行動圏

対象事業実施区域

注) 行動圏は 2021 年 12 月～2022 年 8 月の調査結果のうち、各種の繁殖期の行動をもとに推定しています。

調査対象外のつがいについても、参考として示しています。

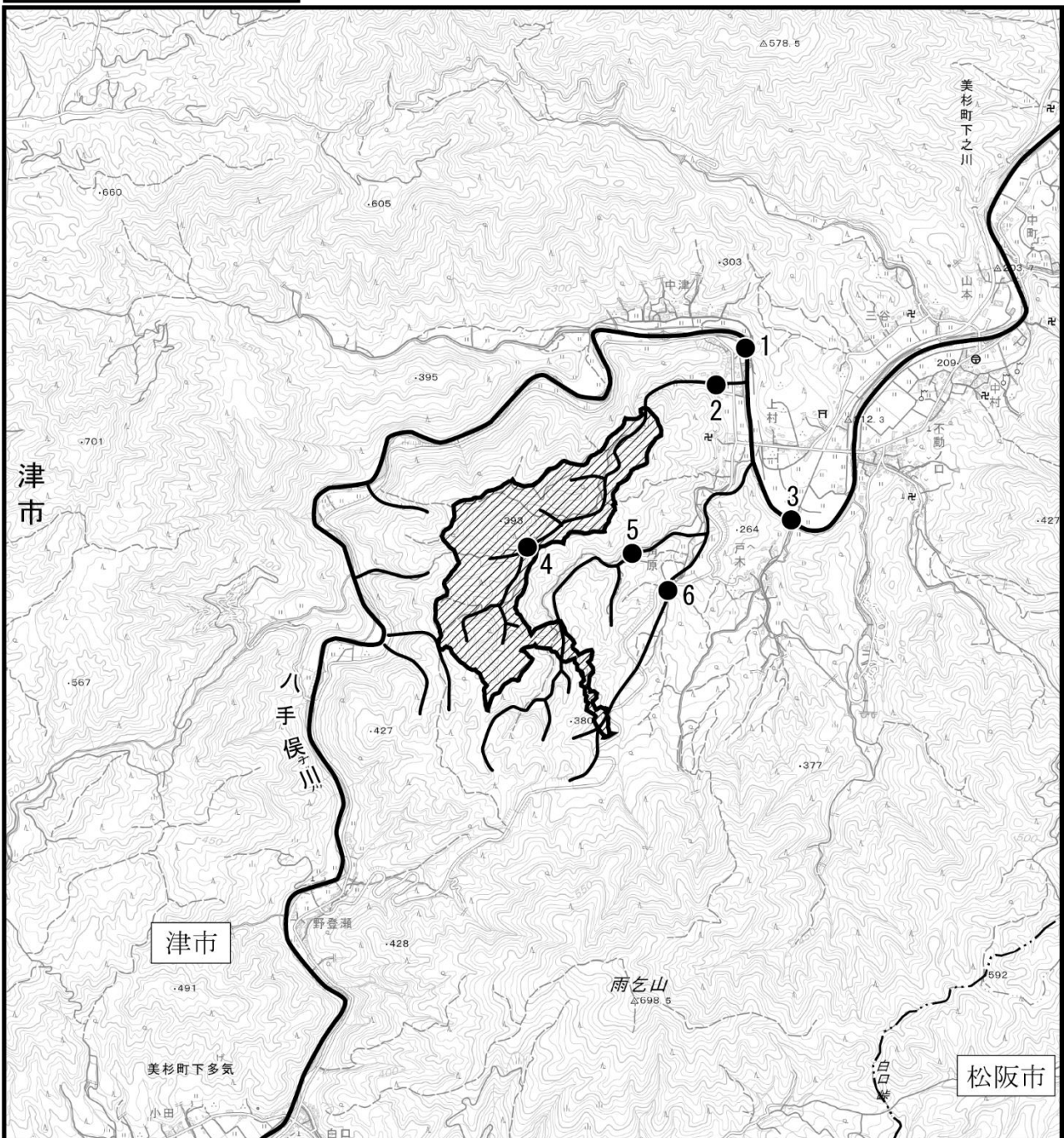
確認されたサシバ・クマタカの推定される行動圏（参考）

○事後調査の結果の検討

調査の結果、サシバ・クマタカは継続的に生息し、繁殖に関する行動が確認されていること、現在はサシバ・クマタカの繁殖に影響を与える工事等を実施していないことから、事業によるサシバ・クマタカの生息に対する著しい影響はないと考えられます。

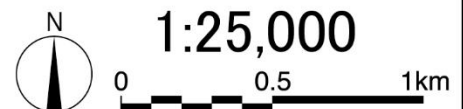
ただし、工事の進捗状況等によりサシバ・クマタカの生息状況が変化する可能性があるため、施設完成後 2 年目まで同様の調査を実施する計画であり、その結果を踏まえて影響を評価していきます。

調査地点図① 水質



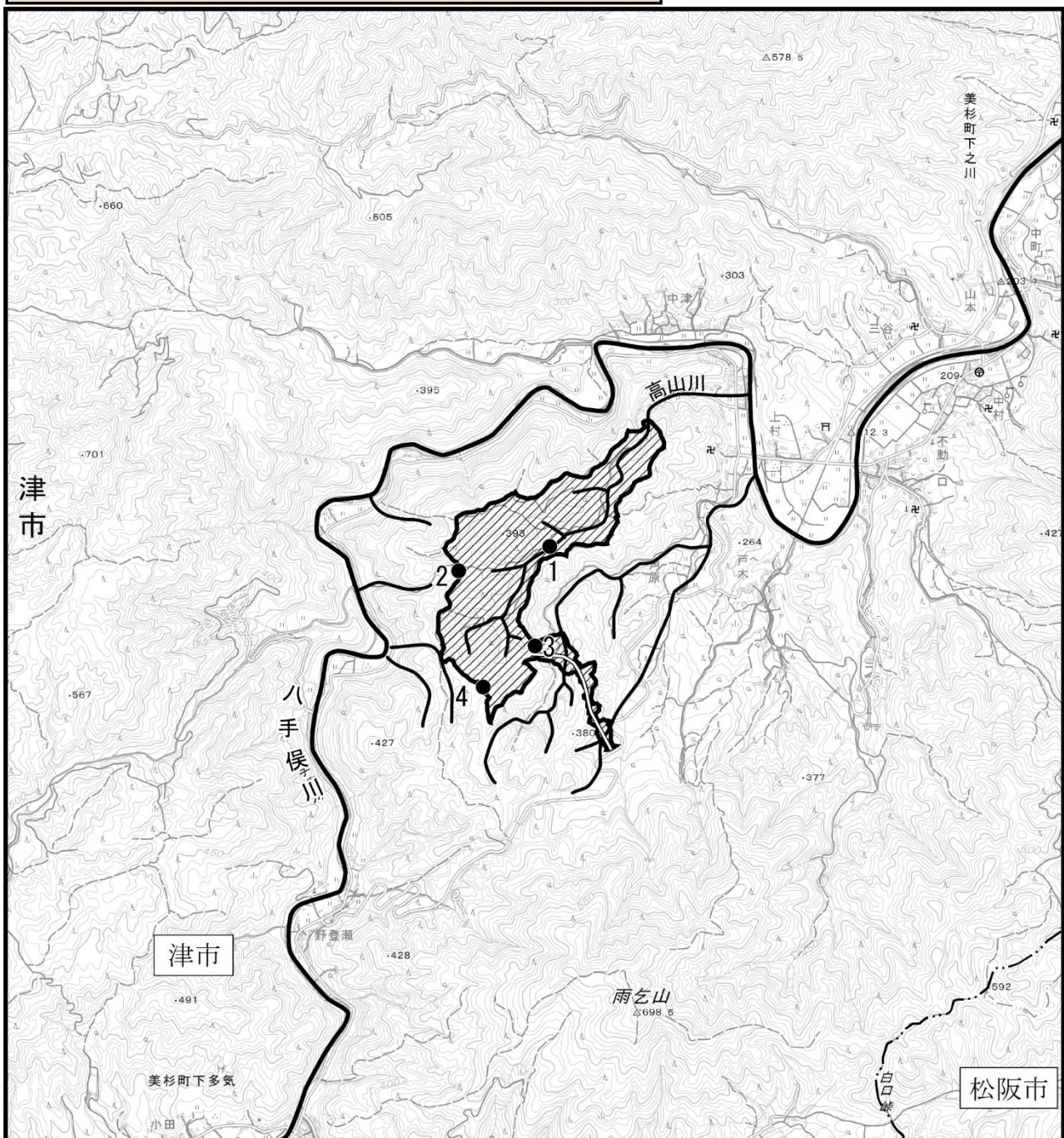
凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市 界
-  : 八手俣川及び沢
-  : 水質調査地点 (1~6)



※地理院地図（標準地図）を加工して使用

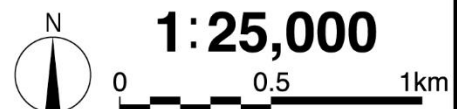
調査地点図② 地下水の水質及び水位（観測井戸）



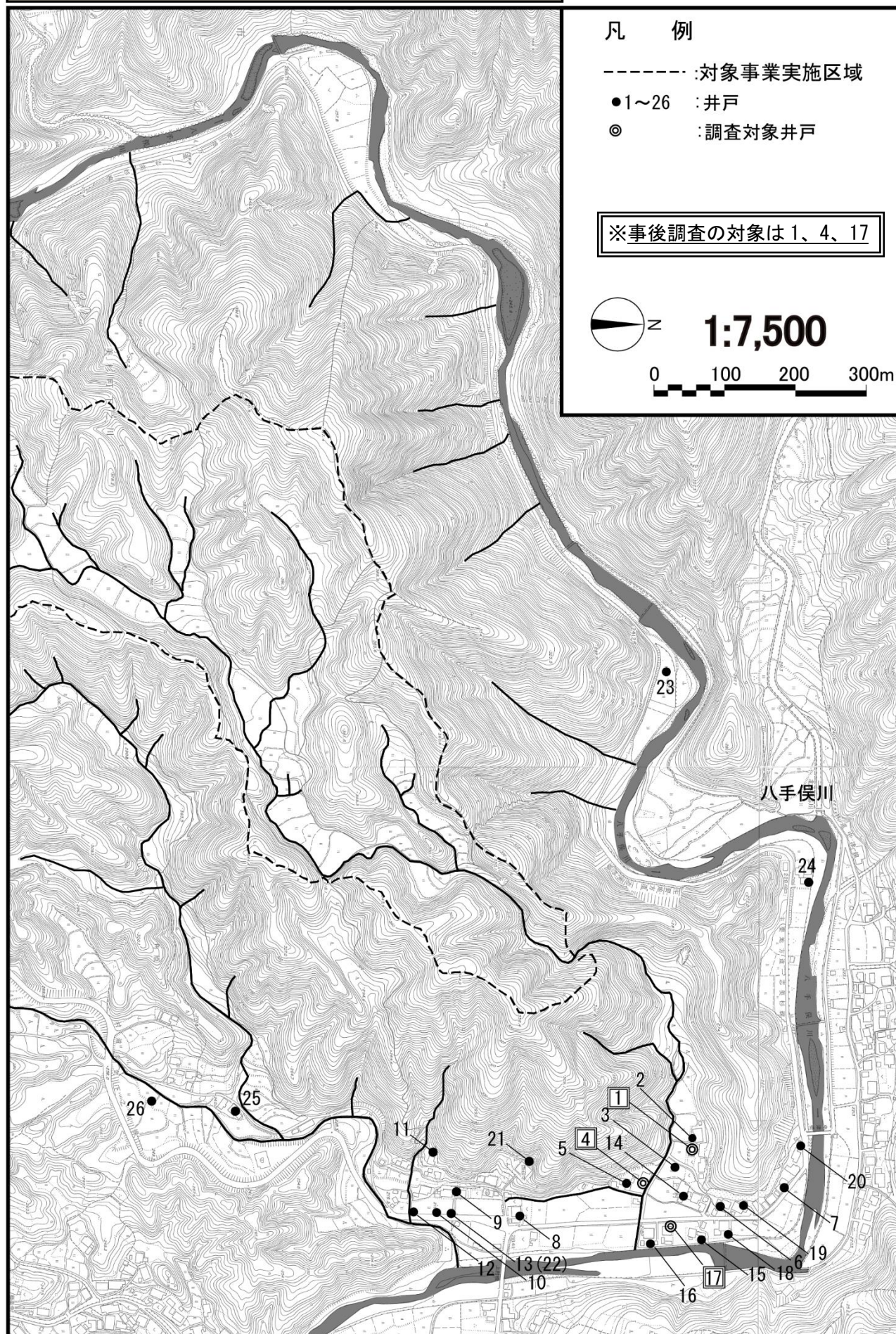
凡 例

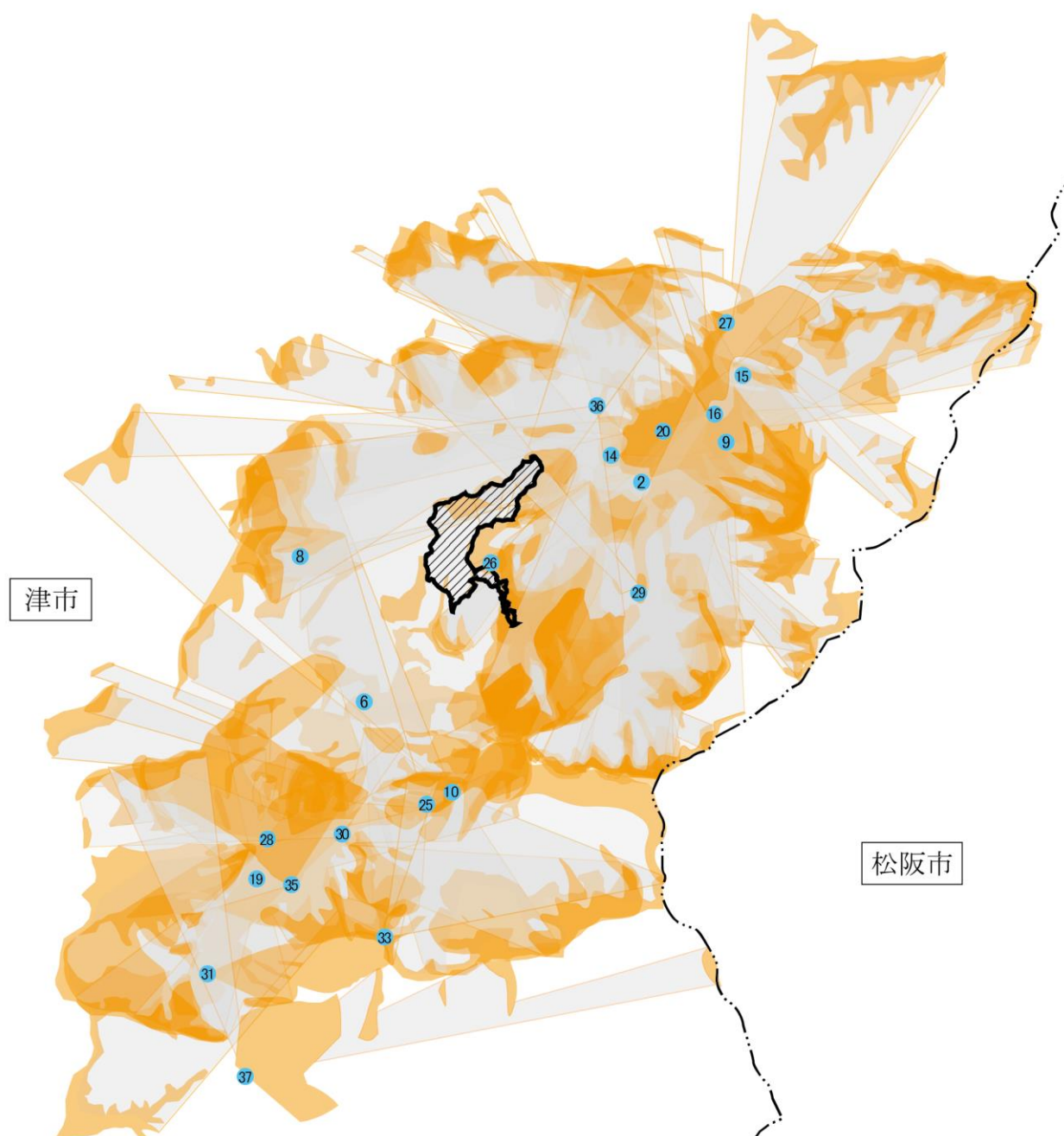
-  : 対象事業実施区域
-  : 進入路
-  : 市 界
-  : 八手俣川及び沢
-  : 観測井戸 (No. 1~4)

※地理院地図（標準地図）を加工して使用



調査地点図③ 地下水の水質及び水位（民間井戸）





凡 例



対象事業実施区域

※種の保護のため、詳細は非公開としています。



定点観察地点
(地点番号を図内に丸数字で表示)



上空と山肌が見える範囲



上空が見える範囲



1:50,000

0 1 2km